

保育学科学生としての意識調査（1）

—入学時の意識—

近藤 淑子*

A Survey of Opinions as Student at the Department of Nursery (1):
Opinions at the Time of Entrance into College

Yoshiko Kondo

保育学科は教育課程の性格上、幼児教育に携わるものを育てる目的学科である。当然のこととして学生は幼稚園教諭や保育士になることを目指して入学するものと思われる。しかし、2年間の学生生活の中でその意識や願望は変化し、卒業時まで初期の動機を持ちつづけることも変化の多い青年期においては課題のひとつといえる。入学時から卒業までの専門職への意識の変化を見ることを目的として調査を企画したが、本報告では入学時での意識調査の結果のみを報告する。

Key words: 意識調査 専門職への意識 専門職への動機

保育学科は幼稚園教諭、保育士等を目指す目的学科である。卒業後はほとんどの学生が幼稚園や保育所で職業に就く。今の社会情勢からも学生たちのこれらの専門職への願望は達せられるのが本短期大学保育学科の昨今の状況である。このような点から考えると、自分の将来への目標が到達できる、自己実現が十分に満足される数少ない学科であるといえる。実際、入学試験での保育学科への志望動機については、ほとんど100%と言っていいくらい専門職への願望を述べている。しかし入学試験時での動機が果たしてすべての学生の動機を正確に反映しているかと言えば、必ずしも100%とはいえないと考えることが当然であろう。

専門職への高い動機づけをもって入学し、幼稚園免許や保育士資格を取得するための学習を重ねていく中で、最初に芽生えた始発的動機を2年後の卒業時点まで持ち続けることもまた難しい問題である。短期大学での教育は入学時の専門職への始発的動機づけを失うことなく、さらに動機づけを高めるために学生の心に働きかけねばならないといえる。すなわち、志向的動機に関わっていると考えられる。

近年、短期大学への入学が容易になったこと、

また、社会的な状況が資格志向であることなどいくつかの背景は考えられるが、本短大においても入学した学生が免許・資格を中途放棄したり、また、専門職に就職しないで卒業する学生も少なからず見られるようになった。

学生たちの保育専門職への意識について把握することが今後の短期大学教育において重要な一つの要因になるのではないかと考えられる。入学試験時では志望動機ではほぼ100%の者が専門職に就きたいので、保育学科を受験するということを述べているが、入学試験より約6ヶ月～数ヶ月も経過した時期においても同じ気持ちが持ち続けられるのかについての保障はない。また、入学してから卒業するまでの2年間にわたって、初期の動機を一貫して持ち続けていくことも、青年期後期という発達の時期から考えてみても至難のことなのかもしれない。高いモチベーションを維持することは困難なことではあるが、忍耐強く維持することによって、本来の目的を達成することができた時に初めて自己実現の達成感が得られ、自己効力感を感じとることができるであろう。短大の教育は学生個人個人にこのような充実感と達成感をもたらすことができれば、教育の使命が達成されたといえるだろう。学生たちが2年間にわたって、どのような意識の変遷をたどり、最終目的に到達するのかにつ

* 四條畷学園短期大学 保育学科

いて、学生の意識調査を通してその一端を探るべく、この調査を計画した。

2005 年度入学生より、入学時を最初として、1 年生 8 月～9 月、1 年生 3 月、卒業時にわたり、継続的に意識調査を実施することにした。今回は、保育学科及び短期大学への意識調査の入学時においての 2004 年度生、2005 年度生、2006 年度生の結果について報告する。

調査方法

調査対象

本短期大学保育学科 2004 年度入学生 110 名、2005 年度生 109 名、2006 年度生 107 名の計 326 名を調査対象とした。

入学者の出身高校、入学試験別に見ると図 1、図 2 に示す通りであった。

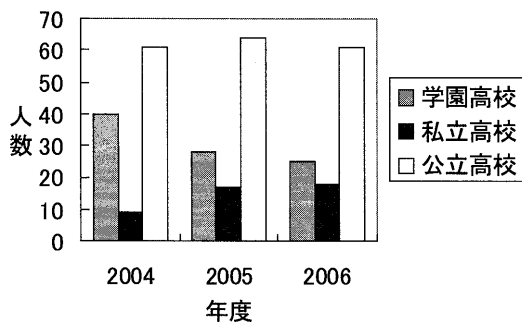


図 1 出身高校の分布

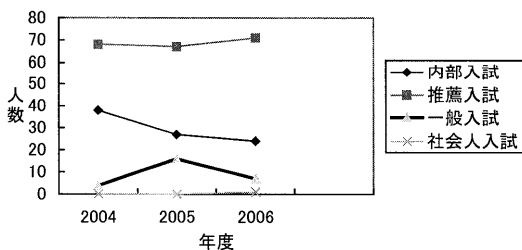


図 2 入学試験による分布

調査時期：いずれの年度においても 4 月の入学当初に実施する諸ガイダンスの終了後に実施した。調査に要した時間は約 20 分であった。

調査項目：調査項目は全部で 12 項目から構成されている。出身校や入試の種類など学生の入学までの情報に関する項目、本短大保育学科への入学の動機に関する項目、入学当初に実施する諸ガイダンスの理解に関する項目、幼稚園教諭、保育士の専門職への志向に関する項目より構成されている。実際に調査に使用した項目は別表に示す通りであった。(ただし今回の結果で使用した項目のみを示してい

る)

調査結果：

入学生の実態

入学生の出身高校別（図 1）を見ると学園高校出身者に年度によって差異がみられ、2005 年から徐々に減少していることがわかる。全体を通して、公立高校出身者が多く、年度によって若干の違いがあるが、入学者の 55%～60% が公立高校出身者である。ついで、学園高校が多く、学園高校以外の私立高校からの入学者が少ないといえる。

入試別に入学者を見ると、特別推薦を含む推薦入試がもっとも多く、いずれの年度においても約 60% の者が推薦入学であり、学園高校からの内部入試を加えるとその割合は極端に多く、とりわけ 2004 年度、2006 年度では一般入試によって入学した者は極端に少なくなっている（2004 年度：3.6%、2006 年度：6.5%）。推薦入学試験は 10 月から 12 月にかけて実施されているので、ほとんどの学生は入学試験合格後入学までには 4～6 ヶ月あり、この期間に初期の動機や願望が変化することもありうるであろう。

入学の動機

保育学科は目的学科であるので、入学生は専門職を目指して入学してくると考えられる。幼稚園の先生や保育士になりたいという願望を抱いて入学すると思われる。この動機が自らの動機（内発的動機）であるのか、親や教師などからの勧めによって生じたものか（外発的動機）を知るために設けた設問の結果は図 3 に示すとおりであった。

図 3 を見ると、「自分で選択した」と回答した者がどの年度においても、「他者からの勧めによる」と回答した者を遙かに上まわっていることがわかる。しかしながら、その傾向は年度によって少し異なっている。2004 年度生は「自分で選択した」ものが 90% 以上であるが、2005 年度生はその割合がとても低く、約 72% であった。また、2006 年度生では約 93% の者が「自ら選択した」と回答し、2005 年度においてのみ「自ら選択した」者の割合が低くなっていることがわかる。

入学への動機が「入試の種類」「出身高校」とに関係あるかどうかを見るために、相関係数を見ると、2005 年度生にのみ有意な相関がみられ

たが（入試の種類：0.27、出身高校：0.27、いずれも $p < .01$ ）、2004年度生と2006年度生では有意な相関関係はみられなかった。2005年度生では「自分で選択した」者が公立高校出身者に多く、また、公募推薦入試や一般入試で受験した者に有意に多く見られるということがわかった。すなわち、特別推薦入試や内部入試ではなく外部からの入学試験を受験した者に「自分で選択した」ものが多く見られたといえる。ただし、この傾向は2005年度生のみで見られるに過ぎなかった。

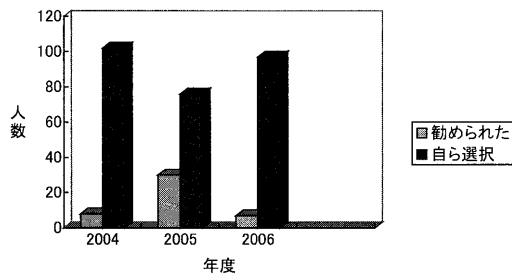


図3 入学の選択理由

次に、「自分で選択した」場合の理由についての結果は図4に示すとおりであった。これは自由記述で回答したものを「幼稚園の先生や保育士が自分の小さい時からの夢、あこがれ」「子どもが好き、関心がある」「就職がいい、資格が取得できる」「資料を見たり、オープンキャンパスに参加して」「その他」の5つのカテゴリーに分類した。年度ごとにカテゴリー別に表したものが図4である。いずれの年度においても「自分の夢、あこがれ」と回答した者がもっとも高く、次いで「子どもが好き、子どもに関心がある」という回答が多いことがわかる。しかしながら、2005年度では、「自分の夢・・・」と「子どもが好き・・・」の回答が同数を示していることが他の年度生と異なることである。

「就職や資格取得」を理由の第一にあげる者はどの年度においても約1割程度だった。回答が一つに絞ったためとは考えられるが、入学時においては「自分の夢の実現にむけて」「子どもが好きなので、子どもに関する仕事をしたい」という内発的動機づけに根ざした選択理由が多いことがわかる。

今の時代は資格志向といわれるが、保育の専門職に関しては、単なる資格志向というよりも、自分自身の関心や願望に基づいた動機が多いことが示された。

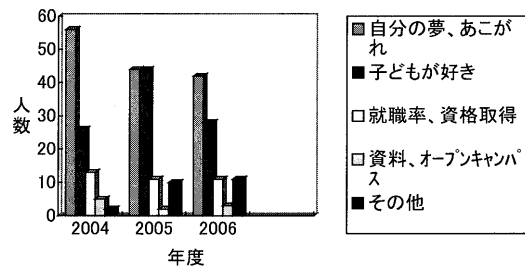


図4 「自分で選択した」場合

専門職への志向性

入学の時点で幼稚園の教諭や保育士という専門職にどの程度なりたいたいのかを問うた項目について分析すると図5の通りであった。各年度において「どうしてもつきたい」が多く、これは入学当初の気持ちとしては当然のことであり、専門職への高い動機づけをもっていることがわかる。

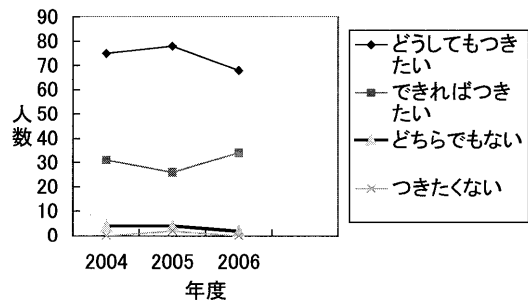


図5 専門職への意思の程度

図5からもわかるように、専門職への動機は非常に高いことが示されたが、では実際には専門職になれるだけの自信をもっているのだろうか？ なりたいたい気持ちと、なれるだろうという自信があってはじめて自己実現が遂行されるといえる。

「専門職に就けるだろう」という自己確信をどの程度もっているかについての結果は図6に示す通りであった。

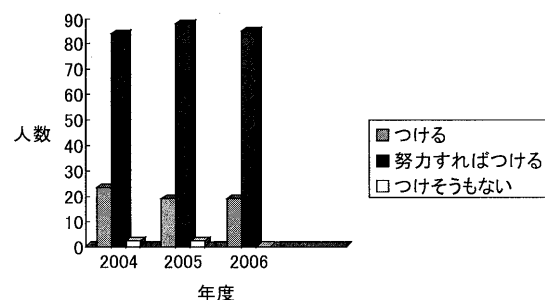


図6 専門職への有能感

図6からは、どの年度においても同様の傾向を示し、「専門職につける」と回答した者はいずれの年度においても約20人前後であり、「努力すればつけると思う」をあわせると、入学者のほとんどの者が「やればできる」という有能感を持っていることがわかる。

これらの結果を合わせ考えると、入学時においては専門職への高い動機づけとやればできるという高い自己有能感をもっているものがどの年度においてもほぼ全員であることがわかる。

ガイダンスの理解度

入学当初のガイダンスは短大2年間の学生生活を送るための重要な内容を含んでいる。ガイダンスは教務、学生、実習、ボランティア、訪問介護員の5つに分かれているが、各々について「よく理解できた」「ほぼ理解できた」「よくわからなかった」の3段階の回答について3から1の点数化を行い、5つのガイダンスの合計点を求めた。し

たがって得点は5から15に分布することになる。各年度ごとにガイダンスの理解度を求めると、表1のとおりであった。また、ガイダンスの理解度と他の項目間との関係を見るために相関を求めると表2の結果であった。入学年度によって結果は異なっていることがわかる。2004年度生ではガイダンス理解度と専門職への志向間に有意な相関が見られ、専門職への志向が高い者ほどガイダンス理解度が高いといえる。また、2005年度生ではガイダンス理解度と保育学科への選択理由、ボランティア活動、専門職への志向性、専門職への達成感の4項目とに有意な相関が見られた。つまり、専門職への志向が高く、やればできるだろうという気持ちが強いもののほどガイダンス理解度が高いという関係が見られた。しかし、2006年度生においてはガイダンス理解度と他の項目間には有意な相関は見られなかった。

表1 ガイダンスの理解度

| | 2004年度生 | 2005年度生 | 2006年度生 |
|--------|---------|---------|---------|
| 理解度の平均 | 11.046 | 11.567 | 11.871 |
| SD | 1.474 | 1.966 | 1.963 |
| 範囲 | 8~15 | 7~15 | 8~15 |

表2 ガイダンスの理解度と他項目との相関係数

| | 2004年度 | 2005年度 | 2006年度 |
|--------------|--------|--------|--------|
| 選択の理由 | -.03 | .28* | .08 |
| 自発的選択の内容 | .09 | .15 | .19 |
| ボランティア活動への志向 | .00 | .20* | .12 |
| 訪問介護員資格取得 | .01 | .12 | .21 |
| 専門職への志向 | .27* | .27* | .09 |
| 専門職への有能感 | .10 | .23 | .10 |

* p<.01

各ガイダンスが理解できているかということは、履修や実習などへの取り組みに大きく影響するであろうし、これからの学生生活での取り組みの出発点である。学生の理解度を考えながらガイダンスを行うことは、実施する際の重要な要因である。また、今後の継続的調査における結果とあわせ考えることが大切であろうと思われる。

今回の結果を見ると確かに入学時においてはほとんどの学生が専門職に就きたい、努力すれば就けるだろうという高い動機づけを持っていることがわかる。このような高い動機づけに支えられた気持ちを2年間にわたって持ち続けて、希望する専門職に就職するためには、学生自身の日常のたゆまぬ努力と教員の適切な指導、教育が求められるだろう。序においても述べたように、入学後の学生の意識の経過を継続的に把

握することが本来の目的である。今回の報告は、入学時における意識についてのみ報告したが、今後卒業時まで継続的に意識調査を続け、入学から卒業、就職へと進むにつれて、学生の専門職への意識にどのような変化がみられるかについて明らかにしていきたい。さらに、年度毎の推移を見ることによって、年次的に学生の意識がどのように変化していくのかについても合わせて報告していきたいと考えている。

(付記) この調査データは入学時をはじめとして、学期ごとに行うガイダンスやクラスミーティング時に各担当の先生方にご協力頂いて収集しました。資料収集に快くご協力頂いた保育学科教員にこの場をかりてお礼を申し上げます。

保育学科学生としての意識調査

学籍番号() 氏名()

四條畷学園短期大学保育学科に入学され、心新たに新年度を迎えられたことと思います。また、入学式に続いて、3日間のガイダンスを経て、2年間の学生生活についての大体のイメージができたのではないのでしょうか。みなさん方が短大生活を送られるために必要な内容を集約して3日間でガイダンスを行いました。その中でわからなかったことや疑問に思ったことはなかったでしょうか？ほんの少しでも、疑問に思うことはそのままにしないで、解決するように努力して下さい。

さて、ガイダンスでは各委員会より一方的にたくさんのお話をしましたが、理解できましたでしょうか？ また、あなた達はどのように感じ、考えているのでしょうか？ このようなことに関して、下記の質問に答えて下さい。質問にはあなたが思うまま正直に答えて下さい。これからの成績などにはいっさい関係しませんが、安心して下さい。

1. あなたは保育学科に入学されましたが、保育学科を選択したのは、①②のうちどちらですか？ ()に○印を書き、それぞれの質問に答えて下さい。

- ①() 自分自身で選択した
選択した理由は
- ②() 誰かに勧められて選択した
誰に勧められましたか

2. 保育学科は、どのようなことを学ぶ学科ですか？ あなたが理解している範囲で書いて下さい。

3. ガイダンスについて答えて下さい

- ① 学生委員会ガイダンスは
() 良く理解できた () 理解できた () 良くわからなかった
わからないことや疑問に思うこと、または思ったことを自由に書いて下さい
- ② 教務ガイダンスについて
() 良く理解できた () 理解できた () 良くわからなかった
わからないことや疑問に思うこと、または思ったことを自由に書いて下さい
- ③ 実習ガイダンスについて
() 良く理解できた () 理解できた () 良くわからなかった
わからないことや疑問に思うこと、または思ったことを自由に書いて下さい
- ④ ボランティア活動について
() 良く理解できた () 理解できた () 良くわからなかった
ボランティア活動
() をやってみたいと思う () には関心がない
- ⑤ 訪問介護員について
() 良く理解できた () 理解できた () 良くわからなかった
訪問介護員の資格を
() 取得したいと思う () 取得したいとは思わない

4. あなたは将来どの程度専門職(幼稚園の教諭、保育士)につきたいと考えていますか？該当する箇所に○印を付けて下さい。

- () どうしても専門職につきたい
() できれば専門職につきたい
() どちらともいえない
() 今のところ、専門職につくつもりはない

あなたは短大卒業後、専門職に

- () つけると思う
() 努力すればつけると思う
() 自分にはとてもつけそうもないと思う

保育学科教員一同